





(1クール目) リプロファズ+ラズクルーズ

+ 大津赤十字病院 薬剤部

【治療スケジュール】

以下のメニューのおくすりを4週間毎繰り返します。

				← 1クール →							
				第1日目	2~7日	8日	9~14日	15日	16~21日	22日	23~28日
薬剤名	外観	液色	薬効	投与方法	点滴	点滴	点滴	点滴	点滴	点滴	点滴
① デカドロン注		無色	お薬の過敏症を抑えます。	↓ 15分・点滴	お休み	お休み	お休み	お休み	お休み	お休み	お休み
② アセリオ注 ポララミン注		無色	お薬の過敏症を抑えます。	↓ 15分・点滴							
③ リプロファズ皮下注 [®] (アミバンタマブ)		無色	細胞増殖を抑えます。	↓ 5分以上かけて皮下注		↓	↓	↓	↓		
ラズクルーズ錠 [®]			細胞増殖を抑えます。	1日1回 28日間・内服							

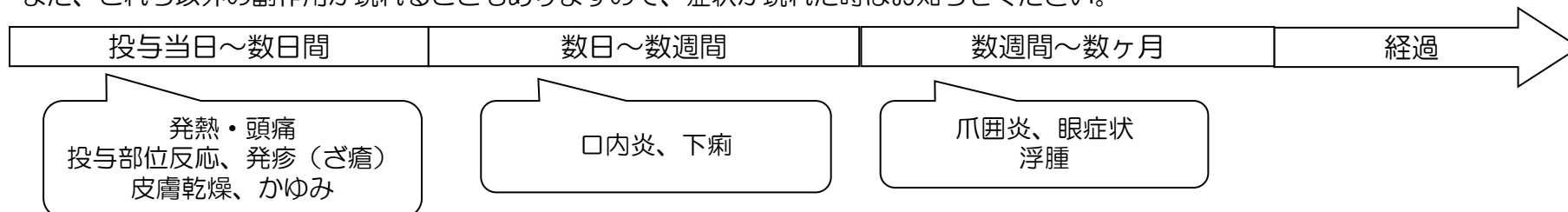
※お薬の投与速度・投与間隔が変わることがあります。また、症状に応じてお薬を変更・追加・削除することがあります。

【注意事項】

投与中は安静にし、注射の針を刺している部分が動かないように心掛けてください。
 お薬が皮膚に漏れると、針を刺している部分に違和感や痛み、腫れ、赤み等が現れることがあります。
 このような症状がありましたら速やかにお知らせください。
 抗アレルギー薬を含むので眠気やふらつき、転倒にご注意ください。
 投与日のお車の運転はお控えください。
 ラズクルーズとの併用により、静脈血栓塞栓症のリスクがあります。下肢の疼痛、浮腫、突然の息切れ、胸痛があれば速やかに受診してください。

【副作用と発現時期】

ここにはあくまで一般的に予想される副作用が、いつごろ現れるかをお示ししています。これらの症状が必ず起こるということではありません。発現頻度・程度・時期には個人差があります。また、これら以外の副作用が現れることもありますので、症状が現れた時はお知らせください。



【注意が必要な副作用】

頻度は高くありませんが、次に示すような副作用が報告されています。下記の症状が現れた時は医師または薬剤師へお知らせください。

- 骨髄抑制 : ★38℃以上の発熱、咳、下痢、排尿痛・残尿感、性器痛、肛門痛、鼻血、血便・血尿、歯茎出血、腕や足の赤い斑点、疲れやすい、めまい・息切れ
- 過敏症 : ★呼吸困難、じん麻疹、眼および口の周囲の腫れ、冷汗、頻脈
- 消化器症状 : ★突然の激しい腹痛、背部痛、重度の下痢、脱水症状、もたれ、胸やけ、吐き気、嘔吐、食欲不振
- 下痢・脱水 : ★口の渇き、手足のふるえ、過呼吸、重度の下痢、意識障害(時に昏睡)
- 心障害 : ★呼吸困難、足などのむくみ、咳の増加、胸痛、みぞおちや頸部の締め付け、圧迫感、冷汗
- 肝障害 : ★全身倦怠感、食欲不振、疲れやすい、腹部不快感、黄疸(皮膚や眼などが黄色くなる)
- 皮膚障害 : ★中央に浮腫を伴った発疹、まぶた・眼球結膜の充血、口腔内の痛みを伴った粘膜疹
- 肺障害 : ★胸痛、意識障害、呼吸困難、(空)咳、発汗、発熱、ピンク色の痰がでる、尿量減少、むくみ
- 血栓 : ★意識を失いそうになる、身体の麻痺、ろれつがまわらなくなる、激しいめまい、胸が痛んだり締め付けられるような感じ、足がむくんだり痛みが出る、突然の息切れ
- 眼障害 : ★ドライアイ、角膜炎、充血、視力障害

連絡先 大津赤十字病院

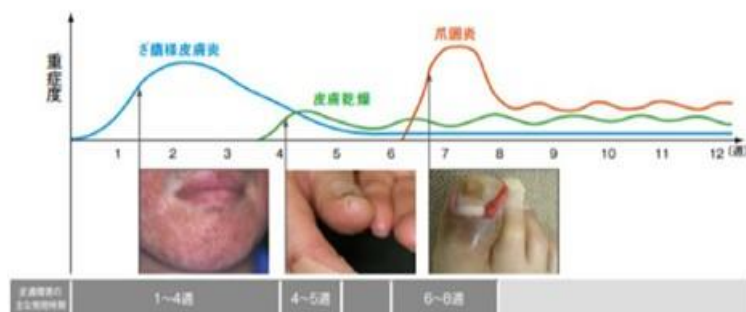
TEL 077-522-4131

平日8:30 ~ 17:00 受診されている診療科
平日17:00 ~ 翌8:30 及び 休日 救急外来

皮膚症状に対する治療薬について

■EGFR阻害剤による典型的な皮膚障害の臨床経過及び対処法

※下図はEGFR阻害剤による典型的な皮膚障害とその発現時期について示したものです。



アービタックス適正使用ガイドより抜粋

★以下の薬は、皮膚の症状を予防するためのものです。
治療のお薬が始まったら、一緒に使い始めて下さい。

分類	医薬品名	用法用量
抗生物質	ミノマイシン [®] 錠 	1日2回 1回1錠 服用
保湿薬	ヘパリン類似物質 [®] クリーム 	1日6回 かお・手・足・からだの保湿
保湿薬	ヒルドイド [®] ローション 	1日6回 かお・からだの保湿

★以下の薬は、皮膚の症状が出てきたら使用して下さい。

分類	医薬品名	用法用量
ステロイド薬	クロベタソン酪酸エステル [®] 軟膏 	1日2回 かおの皮疹
ステロイド薬	アンテベート [®] 軟膏 	1日2回 手・足・からだの皮疹
ステロイド薬	リンデロンVG [®] ローション 	1日2回 あたまの皮疹

外用薬の塗り方（単純塗布法）

★ポイント

- 外用薬を塗る時は、必ず手を洗きましょう。
- 狭い患部に塗る時は、指の腹部を使い、広い患部には手のひらを使います。
- お薬をすり込むのではなく、皮膚に刺激を与えないようにやさしく塗りましょう。

ステロイド薬

指の腹でお薬をとり、患部に薄く塗り広げるように塗ります。

保湿薬

手にとり、塗る部分に点在させます。指先ではなく、手のひらを使って、やさしく丁寧に、出来るだけ広い範囲に塗ります。

★お薬を使用する際の注意点

- 5種類の外用薬が処方されますので、使用部位や回数を間違えないようにしましょう。
- 外用薬を重ねて塗る場合、保湿薬→ステロイド薬の順番で塗りましょう。
- 別に医師の指示がある場合は、指示に従ってお薬をご使用ください。

外用薬の塗布量

- 外用薬の塗布量を表す単位として[FTU]が使われています。
- 1FTUとは軟膏剤・クリーム剤は人差し指の先端から第一関節まで絞り出した量、ローション剤の場合は手のひらに1円玉大に出した量を表します。
- 1FTUで大人の手のひら2枚分に相当する面積を塗布することができます。

1FTUの量とは



部位毎の使用量の目安

